



佐高

スーパー グローバル ハイスクール

SGH通信 2019

No. 42 (2020年2月27日発行)

佐高 SGH インスパイア ファイル

先輩 佐野高等学校 3期生 佐藤 直 氏

先輩シリーズ第2弾として、本校3期生の佐藤直さんを紹介いたします。現在大阪大学の3年生ですが、タンザニアに留学をしています。高校在学中はおとなしいが芯が強く、語学力抜群であった佐藤さんですが、大学入学後なぜ留学の道を選び、さらに留学先としてなぜタンザニアを選んだのか興味深いところです。では、佐藤さんから後輩の皆さんへのメッセージを紹介します。



佐藤直氏からのメッセージ (佐野高等学校 第3期生)

タンザニアのダルエスサラーム大学へ留学中

私は今タンザニアのダルエスサラームで生活している。タンザニアってどこ?と思う方が多いだろう。簡単に紹介すると東アフリカに位置し、**公用語はスワヒリ語と英語**。特筆すべきは1961年の独立後、**内戦や紛争**が一度も起きていないこと、**ほぼ全国民がスワヒリ語を話せること**。(この2つがアフリカにおいては、いかに珍しいことかは調べて欲しい。)

まず留学先はダルエスサラーム大学(以下ダル大)。留学目的はスワヒリ語を学ぶこと。期間は10ヶ月を予定している。なお阪大とダル大は協定を結んでいないため、私費留学で、単位互換など一切ない。また現在は現地人と一緒にの部屋で大学内の寮に住んでいる。

タンザニアの国旗



タンザニア人との付き合い方

留学当初から最も苦労していることはタンザニア人との付き合い方だ。彼らは日時を守らない。ある大学職員は「明日やるよ」と言い続け、**3ヶ月経ってもその仕事をしてくれない**。また、男性は会って7秒で電話番号を聞いてくる。教えたら終わり。毎日電話、メッセージの嵐。歩けば「チナ!(スワヒリ語で中国を意味する)」「チンチョン!(アジア人差別の用語とされる)」「中国人!フンホン!(中国語の真似と思われる)」と差別的に嘲笑される。またタンザニアトップのダル大の学生であっても平然と嘘をつき金銭を要求してくる。そんな彼らをどう信じて、**友人と呼べる関係**に発展させたら良いのか全く分からなかった。

39度の高熱！！

いや、正直な話、3ヶ月が過ぎても分からないし、一生分からないのではと思っている。そんなこんなで友人と呼べるタンザニア人は2人しかいない。しかしタンザニア人は良くも悪くも距離感が近く親切(時にお節介)だ。タンザニアにやってきて1ヶ月経った頃、私は39度の高熱を出し、**マラリア**の可能性を否定できないため病院に行き検査をしなければならなかった。大学内の病院の場所も仕組みも分からなかった私は、常駐している**警備のおばちゃん**に助けを求めた。彼女はなんと病院まで付き添い、事情を説明してくれ、検査が終わるまでずっと待っていてくれたのだ。ほとんど知らない外国人の私にそこまでしてくれるのか、と感動した。結局マラリアではなかった。

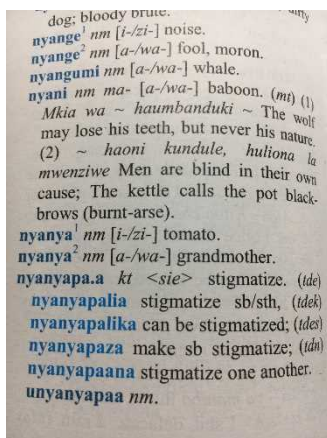
インフラ

タンザニア生活で苦労するのは人間関係だけではない。インフラ整備が不十分なここでは、**断水や停電は当たり前**。むしろ1週間、水が出続けたらラッキー。ただ、断水と言っても完全に水がなくなるわけではなく、大学内にいくつも設置されている5000リットルぐらいの貯水槽からバケツなどに水を汲み部屋に運び生活する。そして停電や断水が解消されると、**寮全体で歓声上がる**。タンザニアにやって来てから**幸福を感じるレベルが良い意味で下がった**ように感じている。水が出たらこの上なく幸せって、通常時の日本では考えられない。



なぜスワヒリ語？

そもそもなぜ私がスワヒリ語を専攻したのかと疑問に思う方もいるだろう。実を言うと明確な理由はない。現役生の時も浪人生の時も、アフリカあるいはタンザニア、スワヒリ語に特別興味があった訳でもない。ただ外国語を学べたらどこでも良かったのだ。阪大のオープンキャンパスでなんとなく立ち寄った**スワヒリ語専攻の説明会**。そこには「アフリカ」っぽい派手なデザインのワンピースを纏う**大阪のおばちゃん(先生方)**がいた。そして直感的に楽しそう！と感じ出願にまで至った。なんとなくで入学してしまったが、今はスワヒリ語が好きで、タンザニアに長期滞在することになっている。



終わりに

これを読んでくださった方、どうか**視野を広く**して世の中を見て欲しい。今は栃木県の片田舎が生活の中心で全てかもしれない。しかし、**そこでは出会えない物や人**が日本中に、世界中に溢れかえっている。**私の世界は大学に入ってから、格段に広がった**。そして、無駄と思わずに何にでも挑戦し、精一杯努力すべきだ。勉強で身につけた正しい知識は**自分の大きな武器**となるし、受験を含め**人生の選択肢を増やす重要な手段**だ。その他の部活や趣味も意外なところで必ず役に立つ。人生どうなるかなんて本当に分からない。だからこそ「今」を有意義に過ごして欲しい。